ふしぎなフーセンガム

すきなことをやるのが一ばん

1年　A・Kさん

ぼくが一ばんこころにのこったのは、女の子にへんしんしたじゅんくんがみこちゃんに本とうの名まえを言えなかったところです。なぜかというと、ぼくはともだちにうそをつかれるのがいやなので、じゅんくんにはゆう気を出して、どうどうとみこちゃんに本とうのことを言ってほしかったからです。

ぼくのまわりには、みこちゃんのように男の子みたいな女の子がいます。たとえば、ぼくがかよう学どうに、くろいランドセルをもつ女の子がいます。くろいランドセルは男の子がもつイメージがあるので、かわった女の子だとおもいます。そのはなしをおかあさんにつたえました。すると、大人の女の人はくろいかばんをもつ人がおおく、おかあさんのかばんもくろいこと、くろのかばんをもつおかあさんのことをかわった人だとおもうのかとおかあさんにきかれ、ぼくは上手にこたえられませんでした。大人の女の人はくろいかばんをもっていてもおかしいとおもわないのにどうしてくろいランドセルをもつ女の子はかわった子だとおもうのか、じぶんでもふしぎにおもったからです。また、学どうにはサッカーをならっている女の子がいます。たくさんの男の子にまじって、女の子二人がれんしゅうをしているすがたをよく見かけます。この本では、サッカーは男の子のあそびとして書いてあったけれど、ぼくはサッカーをしている女の子を見てもかわった子だとはおもいません。なぜなら、なでしこジャパンという女子のせん手がプレーしているすがたをテレビで見たことがあるからです。

この本を読んで、じぶんの中で男の子のイメージ、女の子のイメージがあることに気がつきました。まわりの人にどうおもわれようとじぶんのすきなことをどうどうとやるのが一ばんよいとおもいます。ぼくはこれからも大すきなやきゅうをつづけたいです。